



## ないすいめんしけんじょうきんむ 内水面試験場勤務 -シーズン3-

はじめまして、本年4月から内水面試験場（以後「試験場」という。）

に配属となりました蓑宮（みのみや）と申します。

今回の試験場への配属は3回目、9年振りの復帰となります。10年近

く離れていると色々なことが変わっていて戸惑うことも多く、浦島太郎のような感覚です。まず、最初に驚いたのは、試験場の看板的な存在であった水辺ビオトープが昔の面影もないほどに荒廃していたことです。

また、建物の老朽化も進んでおり、自分と同じように歳をとったんだなど痛感させられます。

さて、このコラムでは試験場のお仕事を紹介しておりますので、この

度私が担当となりました業務についてお話をさせていただきます。

本県のアユ漁は6月1日が解禁日で、今年も多く多くの太公望で川が賑わ

うことを期待しています。漁業権が設定されている川では、毎年多くの

アユが漁協さんによって放流されています。県では放流用のアユを

民間業者への委託事業により生産して漁協さんに配布しております。

この委託事業では、試験場から供給されるアユの卵を請負者が放流

サイズの魚にまで育てます。従いまして、試験場は約600万粒もの

りようしつ らん まいとしきょうきゅう しゅくめい お  
良質なアユ卵を毎年供給しつづけないといけないという宿命を負  
っているのです。

しけんじょう しごと なか らん きょうきゅう ひじょう じゅうよう せきにな おも  
試験場のお仕事の中で、アユ卵の供給は非常に重要で責任が重い  
ぎょうむ ひと わたし しゅ ちょうさぎょうむ たんとう  
業務の一つですが、私はこれまで主として調査業務を担当していたので、  
アユの飼育は全く経験したことはありません。アユは元気に泳いでいて  
あ す びょうき しんぱい いけ のぞ まいにち こころ  
も明日には病気になるかもしれないと心配しながら池を覗く毎日は、心  
けず きぶん しろうとけんきゅういん わたし じょういんみなさま  
が削られていく気分です。こんなド素人研究員の私ですが、場員皆様  
ちから か ぶ じ らん きょうきゅう ひ びしょうじん  
の力を借りて無事にアユ卵を供給できるように日々精進していきたく  
おも きょう ごろ  
いと思う今日この頃です。

ないすいめんしけんじょう しゅにんけんきゅういん みのみや あつし  
内水面試験場 主任研究員 蓑宮 敦